

V226b 明野 50cm 可視光望遠鏡の 2014 年度運用実績

齊藤 嘉彦、橘 優太郎、大内 遙河、吉井 健敏、栗田 真、矢野 佑樹、小野 雄貴、藤原 太智、谷津 陽一、河合 誠之 (東京工業大学)、黒田 大介、花山 秀和、柳澤 顕史 (国立天文台)

明野 50cm 可視光望遠鏡はガンマ線バーストの残光追跡観測を行う MITSuME (Multi-color Imaging Telescopes for Surveys and Monstrous Explosions) のの一つで東京工業大学が運用している。継続時間の短いガンマ線バーストの残光観測を行うために、ガンマ線バーストを検出する観測衛星からの天体検出情報を受け取った際に最短 1 分以内という短時間で追跡観測を開始する機能を備えている。この機動性を保持するために観測システムは自動化されている部分がほとんどであり、観測も東京工業大学の岡山キャンパスからリモートで監視されている。現在はガンマ線バーストの観測という本来の目的に加えて、これまでも継続的に行ってきた活動銀河核のモニター観測や他機関との連携観測を行っている。また、本年度は光赤外大学間連携事業の一環として自動解析環境の再整備も行い、他機関との連携観測が増えてきた現状への対応を開始した。

本講演では今年度行ったガンマ線バーストの残光観測や活動銀河核のモニター観測解析結果に加えて、他機関との連携観測で行った超新星、活動銀河核、X 線新星の観測、さらに解析環境の整備について報告する。